

# ウォーターフロント開発の海外視察

## A foreign inspection of Water Front Development on Water Front

ウォーターフロントの定義は、(社)日本建築学会海洋委員会では「水際線に接する陸域周辺及び、それに近く近い水域を併せた空間」としているが、ウォーターフロント開発の先進国であるアメリカ合衆国では、都市の港湾地区を意味するのが一般的認識であり、実際にも、ほとんどのウォーターフロント開発は都市域で行われているのである。

ウォーターフロントが注目されはじめたのは、第一に産業の変化や輸送体系の変革などによって、これまでの港湾機能の低下が生じ、その影響が都市にとっても深刻になったことから、港湾地域を再開発することによって、都市の活性化を図ることを目的とした事業が行われたこと。第二に水辺の持つ自然や開放性、それらを包含する祝祭性が、市民の生活環境の質の向上という欲求(アメニティの希求)に応えるにふさわしい空間であるという認識が強まってきたことにあるといわれている。

今回視察したウォーターフロント開発は、○ロンドン、パリ、ロッテルダム…都市の再開発○バルセロナ、ニース近辺…生活環境の質的向上を目的としたものである。

尚、参加者は、横内教授(日本大学理工学部海洋建築工学科)を団長とする総数7名の団体であった。

星 敏彦\*

高橋 誠\*\*



### 視察(研修)箇所の概要

#### 1. ドックランズ(ロンドン)

① 開発区域 22km<sup>2</sup>

② 背景…都市機能の回復

○300年を要した世界最大の貿易港が1967年~1981年の13カ年でコンテナ化の進行で崩壊し、港湾機能が不要となった。

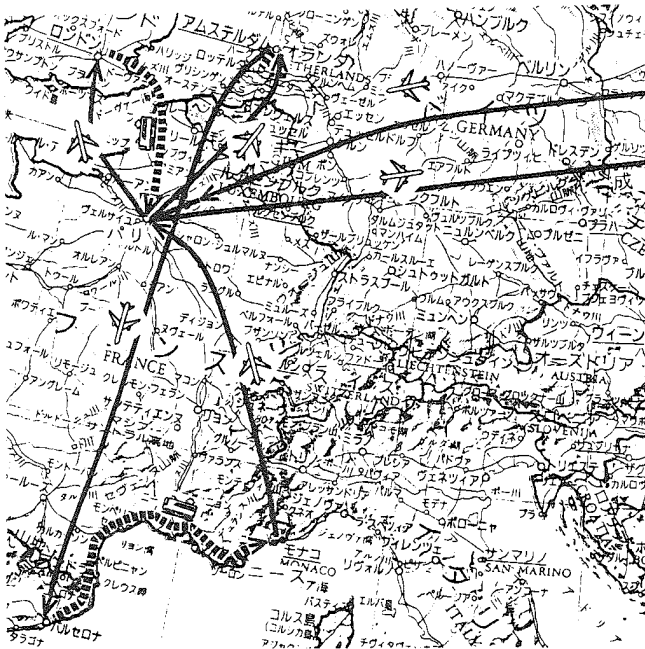
▶ ティルバリーへ移行

○政府の意向(サッチャー政権)…経済体制の再建  
・経済移民

・ロンドン行政区(33カ所)の内、貧しい3カ所を対象

③ 進め方

○戦略的計画を樹て、短期間に(1981年~1998年)



\* ) 地質部 (RCCM:土質及び基礎) Toshihiko HOSHI

\*\* ) 水工部 次長 (RCCM:河川・砂防及び海岸) Makoto TAKAHASHI

○原則…水と流域の保全を図る。

- ・埋立はしない。→高価・影響が大きい。
- ・水面が見える。→工場・ドックに囲まれている。(移転)
- ・インクラの整備…雇用トレーニング、住宅整備、  
 ビンヤ施設設備、公的交通機関の確保  
 (鉄道、地下鉄2ルート)

○投資額 80億ポンド  
 20億ポンド…公的資金  
 60億ポンド…民間資金 (半分、海外から)

④ 現状

- 人 工 4万人→6.2万人  
 (1984年) (1995年)
- 地下鉄 (1998年完成) →4000人の雇用確保
- ロンドンシティー空港 (国際線の乗入れ)
- 農 場 12エーカー
- 景 観→ガイドライン→100万ポンドの資金 (樹木)
- 企業の進出 (雇用機会の増大)

⑤ その他

- 高速道路の建設に伴う 550家屋の移転をトンネルで対応 (抗議を避けるため)

2. パリのセーヌ左岸地区の再開発

- ① 開発区域 130ha
- ② 背景…都市機能の拡大  
 パリの中心、旧市街区は建物外観保存地区であり、新しい業務スペースの拡大は、市東南部13区オステルリッツ駅付近セーヌ川に沿って、再開発する計画が1990年の市議会承認より本格的に始まった。

③ 計 画

計画は交通網の整備 (地下鉄延長、新地下鉄メテオ計画、オステルリッツ駅へのTGV乗り入れ)、幹線自動車道路の新設等を行うとともに、大面積を占める線路上の人工地盤、駅舎の改装も合わせて行

い、住宅、事務所、国立図書館、芸術センター、文教施設、社会施設等、大規模な改造計画である。なお、全ての設備幹線はガスを除き共同溝に用意される。

3. コップ・ファン・サイド・ロッテルダム

(ポートプラン2010に含まれる)

- ① 開発区域 125ha
- ② 背 景…都市機能の再開発  
 ○旧港湾機能の低下 (河口へ移行…コンテナ化)に伴う市街中心部での遊休地 (倉庫等) の出現。郊外から住民を呼び戻すことと就業機会 (オフィス等の建設) の増大を目的に1985年より実施がなされている。

③ 進め方

- ロッテルダム市が主導権を取る。…3段階
  - 国からの援助
  - 議会の合意
  - 川があり、船が見えるように (バルコニーを設ける)

④ 計画…総投資額 45億ギルダー

ウイルヘルミナ埠頭は、ロッテルダムにとって戦略的に重要地区であり、マース川の水辺地区にあるこの用地は、市中心部をマース川南岸まで延長し、オフィス用地に40万平方メートル、工業用地に8万平方メートル、そして5000戸の住宅を提供する。

## 研修日程表

日数	月 / 日	都市名	交通機関/現地時間	適 用
1	11/12 (日)	成田発 ハ <sup>レ</sup> リ(CDG) ハ <sup>レ</sup> リ(CDG) ロト <sup>ソ</sup> (LHR)	発 AF 275 12:00 16:40 AF 820 19:00 19:10	成田空港出発  ロト <sup>ソ</sup> 到着後ホテルへ (ロト <sup>ソ</sup> 泊)
2	11/13 (月)	(ロト <sup>ソ</sup> )		(13:00~16:00) ト <sup>ク</sup> ランズ <sup>ク</sup> のウェルターフロント計画 (ロト <sup>ソ</sup> 泊)
3	11/14 (火)	ロト <sup>ソ</sup> (ウェルター-駅) ハ <sup>レ</sup> リ(北駅)	-ユ-ロスタ- #9042 16:23 20:29	午前：出発まで自由行動 ユ-ロスタ-(高速列車)にてハ <sup>レ</sup> リへ ユ-ロソネル(ロト <sup>ソ</sup> ~ハ <sup>レ</sup> リ)3時間 (ハ <sup>レ</sup> リ泊)
4	11/15 (水)	(ハ <sup>レ</sup> リ)		セ-ヌ川左岸の複合開発 (ハ <sup>レ</sup> リ泊)
5	11/16 (木)	ハ <sup>レ</sup> リ(CDG) 7ムステルグ <sup>ム</sup>	発 AF 2448 16:45 着 17:55	午前：出発まで自由行動 7ムステルグ <sup>ム</sup> へ移動 (7ムステルグ <sup>ム</sup> 泊)
6	11/17 (金)	(ロッテルグ <sup>ム</sup> )		①ホ <sup>ト</sup> アラソ2010(10:00~11:00) ②コッパ <sup>ク</sup> ・フアン <sup>ク</sup> ・サイト <sup>ク</sup> (12:00~13:00) ③都市計画情報センター(15:00~17:00) (7ムステルグ <sup>ム</sup> 泊)
7	11/18 (土)	7ムステルグ <sup>ム</sup> ハ <sup>レ</sup> ルセロナ	発 KL 357 19:20 着 21:30	午前：出発まで自由行動 ハ <sup>レ</sup> ルセロナへ移動 (ハ <sup>レ</sup> ルセロナ泊)
8	11/19 (日)	(ハ <sup>レ</sup> ルセロナ)		ハ <sup>レ</sup> ルセロナ近ト <sup>ク</sup> 村周辺のウェルターフロント (ハ <sup>レ</sup> ルセロナ泊)
9	11/20 (月)	ハ <sup>レ</sup> ルセロナ ニス	発 汽車 8:00 着 18:00	朝：ニスへ移動 (ニス泊)
10	11/21 (火)	(ブ <sup>ロ</sup> ク <sup>ク</sup> ア <sup>ク</sup> ス)		ブ <sup>ロ</sup> ク <sup>ク</sup> ア <sup>ク</sup> ス地方の港湾施設・沿岸開発 ①ホ <sup>ト</sup> アラソのウェルターフロント(10:30~12:00) ②ホ <sup>ト</sup> アラソの港湾開発の説明(15:00~16:00) ③ホ <sup>ト</sup> アラソの運河をホ <sup>ト</sup> にて視察(16:00~17:00) (ニス泊)
11	11/22 (水)	ニス ハ <sup>レ</sup> リ(CDG) ハ <sup>レ</sup> リ(CDG)	発 AF 311 10:00 着 11:30 発 AF 276 13:30	帰国の途へ -ハ <sup>レ</sup> リ経由- (機内泊)
12	11/23 (木)	成田着	着 09:25	帰国・解散



ロッテルダム「ポートプラン2010」事業計画地区にて



アムステルダム中央駅付近の観光船発着所





プロヴァンス地方のポートフレジュのウォーターフロント



プロヴァンス地方のポートグリマのウォーターフロント



バルセロナオリンピック村周辺のウォーターフロント



アムステルダム運河



アムステルダムから車で約1時間のハーグ付近の田舎町